

■ 松本系魚川連絡道路の現状(課題)と必要性について

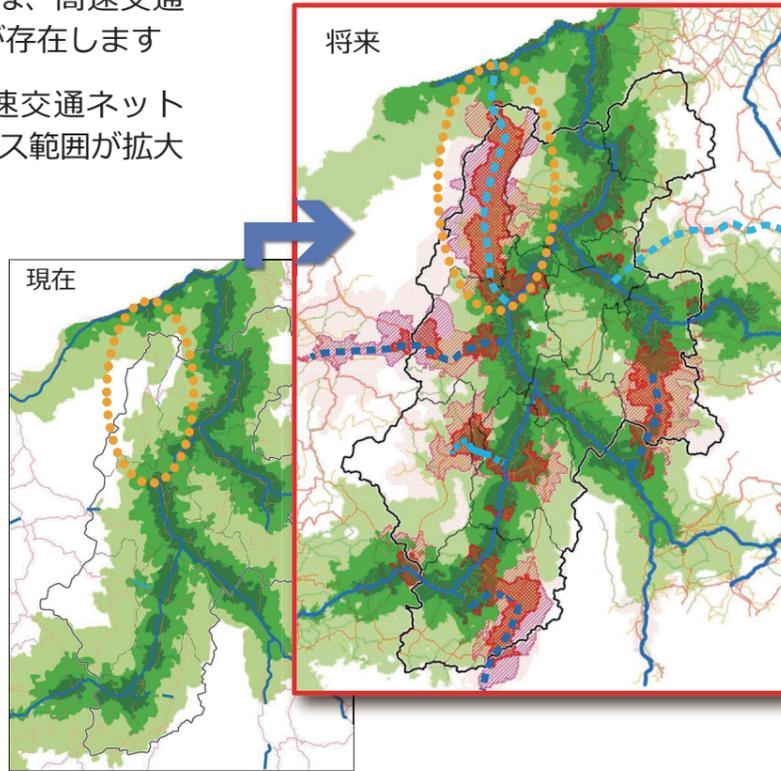


交通

▶ 高速交通ネットワークの空白地域の解消

現状と課題 中信地域から北陸方面へは、高速交通ネットワークの空白地域が存在します

効果 松本系魚川連絡道路により高速交通ネットワークへの15分、30分アクセス範囲が拡大します

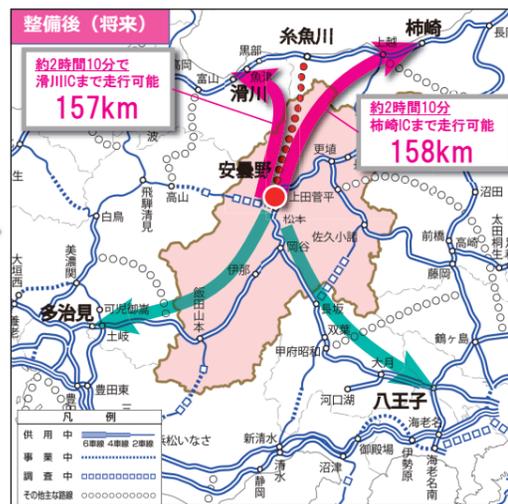


▶ 大北地域・北陸地方への移動時間短縮と定時性の確保

現状と課題 関東・東海方面に比べ北陸方面へのアクセス性が弱い状況です

効果 安曇野ICから各方面への移動時間短縮と定時性の確保が期待されます

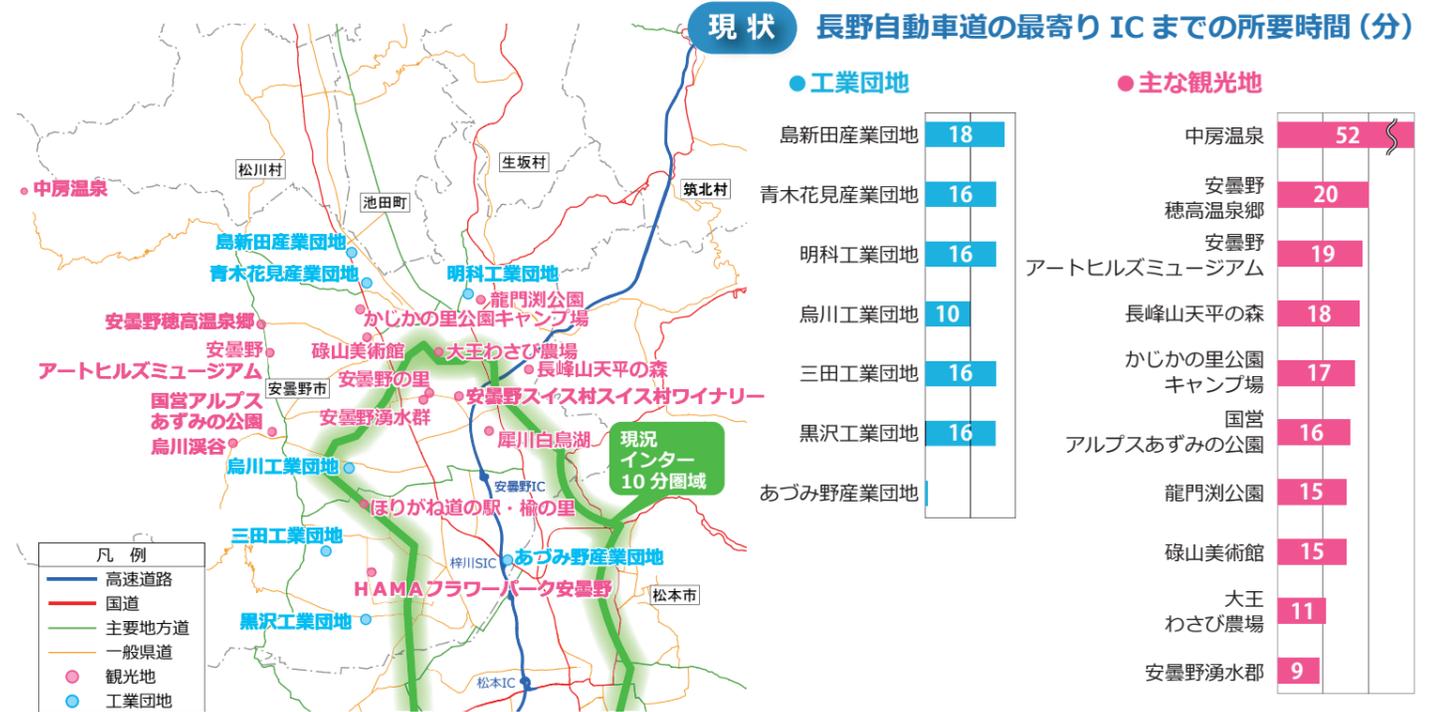
《2時間10分で走行可能な距離(北陸方面)》



▶ 長野自動車道へのアクセス性の向上

現状と課題 工業団地が比較的多い安曇野IC以北は長野自動車道へのアクセスが弱い
主な観光地の多くが10分以上

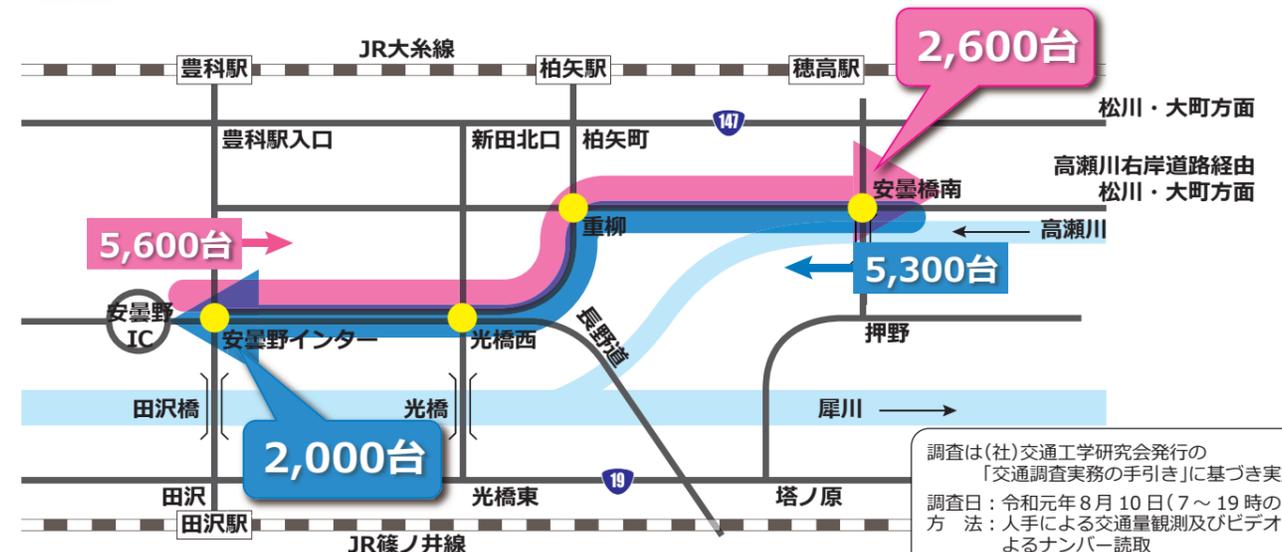
効果 長野自動車道へのアクセス性の向上が期待されます



▶ 安曇野IC周辺の渋滞の状況

現状と課題 市内を通過するだけの車両が多い
安曇野ICを出て直進する車両の約46%は通過交通
高瀬川右岸道路から安曇野IC方面へ直進する車両の約38%は通過交通

効果 安曇野IC周辺の渋滞の緩和が期待されます



調査は(社)交通工学研究会発行の「交通調査実務の手引き」に基づき実施
調査日: 令和元年8月10日(7~19時の12時間)
方法: 人手による交通量観測及びビデオカメラによるナンバー読取
台数: 読取れた台数から実交通に換算し端数を丸めて記載

■ 松本系魚川連絡道路の現状(課題)と必要性について

産業

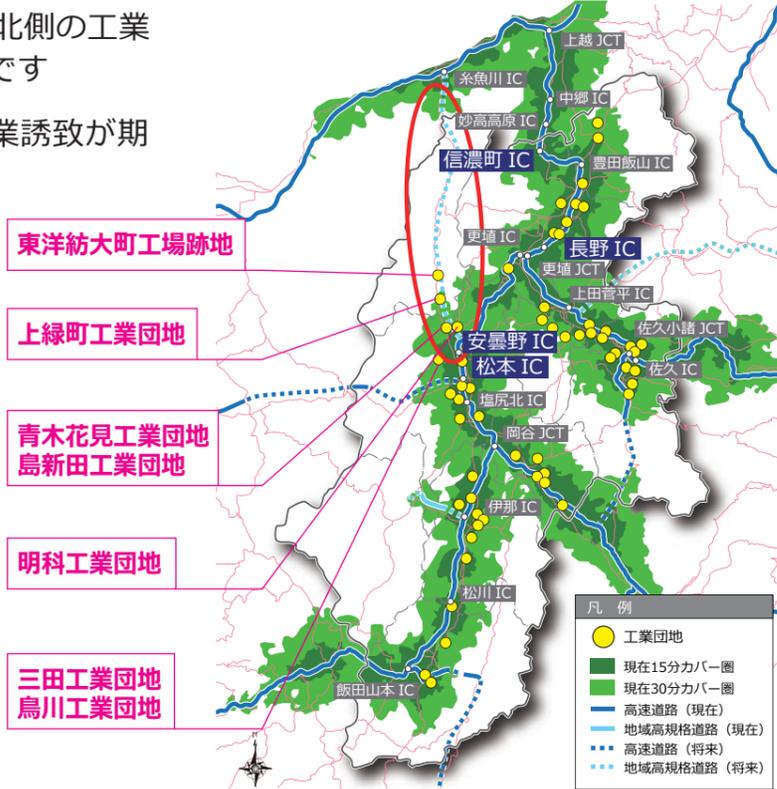
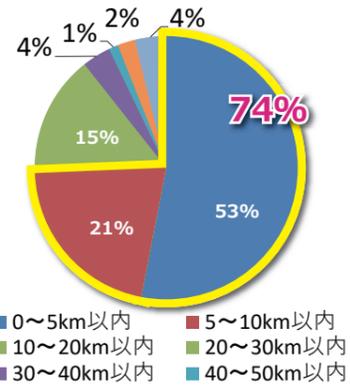
▶ 産業の活性化(工業団地の誘致)

現状と課題 大北地域及び安曇野 IC 北側の工業団地の立地が少ない状況です

効果 松本系魚川連絡道路沿線の産業誘致が期待されます

ポイント

工場立地とICの関係
多くの工業団地は、ICから概ね15分でアクセス可能な10km以内に立地しています。ICに隣接していることは、産業発展に重要な条件です

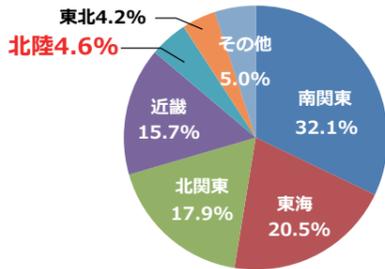


■ 長野県のモノの流れから見た現状と課題

- 長野県から発出される 98.8%がトラックによる輸送です
- 県外へ発出するトラックのうち、高速道路を利用する割合は高い(全国 10 位)です
- 高速道路が県内の物流を支えています

【高速道路を利用するトラック輸送地域別割合】

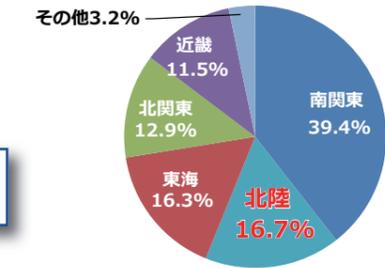
- 南関東と東海地域で 52.6%を占めています
- 比較的遠方の近畿地域でも 15.7%
- 北陸地域は隣接しているが 4.6%と少ないです



北陸地域への高速交通ネットワークが不足

【高速道路を利用しないトラック輸送地域別割合】

- 最も多いのが南関東地域の 39.4%です
- 次いで北陸地域の 16.7%です



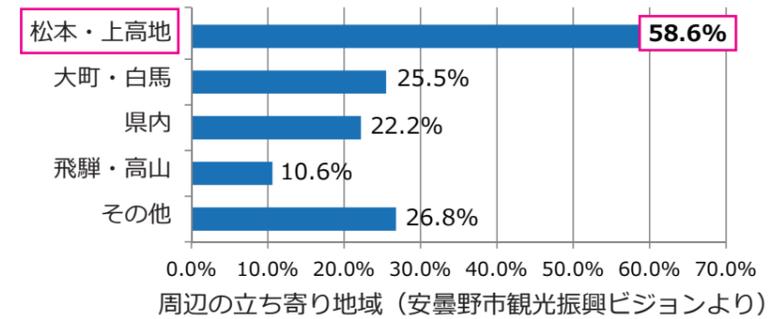
北陸地域への高速道路利用の潜在ニーズがある

⇒北陸地方との連携・高速ネットワークの構築により新たな産業の創出、地域産業の振興と雇用の創出が期待できます

観光

▶ 広域的な周遊ルートの確保

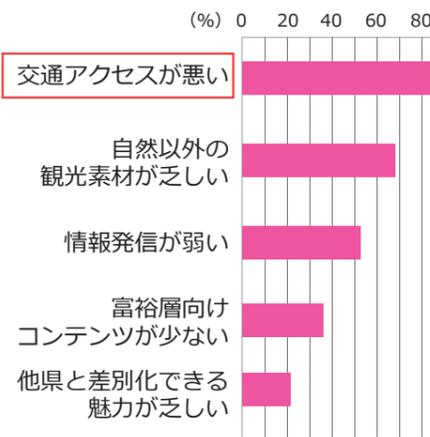
現状と課題 安曇野市に立ち寄る来訪者は、首都圏・中部方面から「松本・上高地」「黒部・立山方面」「高山市方面」と組み合わせで来訪しています。特に「松本・上高地」との組み合わせが多い状況です



■ 県全体の観光地に対する課題(旅行者アンケート)

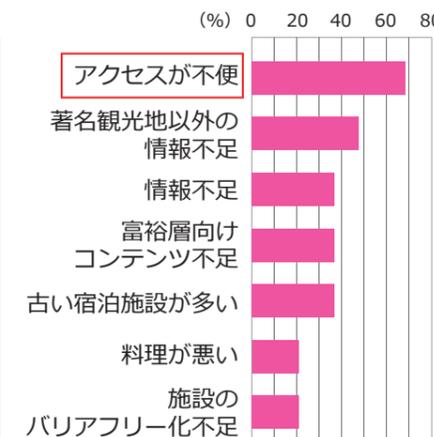
観光地の課題として交通アクセスに関する意見を挙げる旅行会社が多い

● 旅行先を選択されない理由



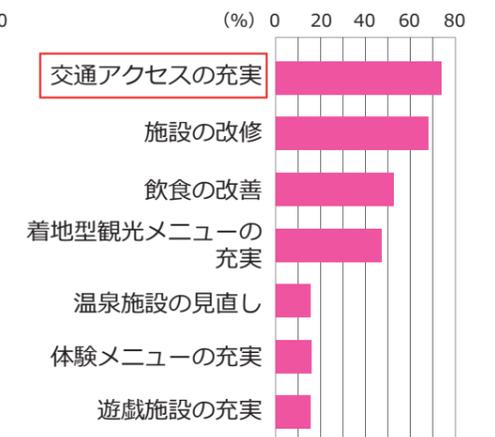
「交通アクセスの悪さ」、「自然以外の観光素材の欠如」、「情報発信の弱さ」を挙げる旅行会社が多い

● 観光地としての課題



「交通アクセスの不便さ」、「著名観光地以外の情報不足」を課題に挙げる旅行会社が多い

● 泊まりたくなる宿泊地を増やす方策



半数以上の旅行会社が、「交通のアクセスの充実」、「施設の改修」、「飲食の改善」が必要と捉えている

長野県観光戦略2018(長野県観光戦略推進本部)(長野県観光部HPより)

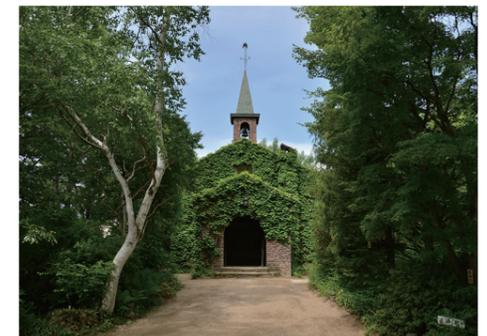
効果 松本系魚川連絡道路により、観光の周遊性やアクセスの向上などが図られ、県全体の観光地の魅力向上が期待されます



中房温泉



大王わさび農場



礫山美術館

※信州あづみの公式観光サイトより(https://www.azumino-e-tabi.net/)

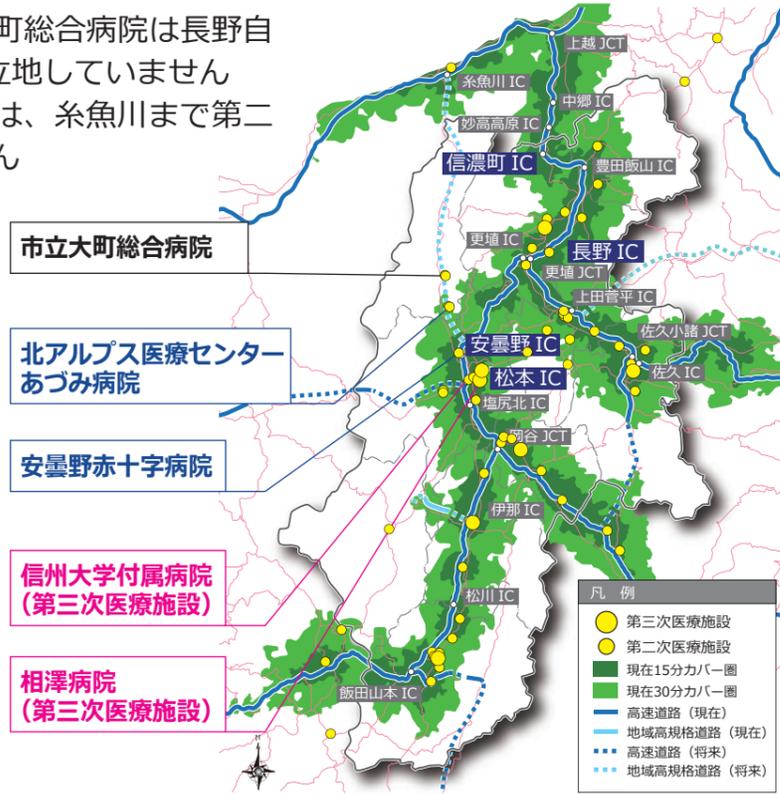
■ 松本糸魚川連絡道路の現状(課題)と必要性について

医療

▶ 医療施設へのアクセス性の向上

現状と課題 安曇野 IC 以北の市立大町総合病院は長野自動車道から 30 分圏内に立地していません
市立大町総合病院以北には、糸魚川まで第二次医療施設が存在しません
大北地域の医療環境の充実が望まれています

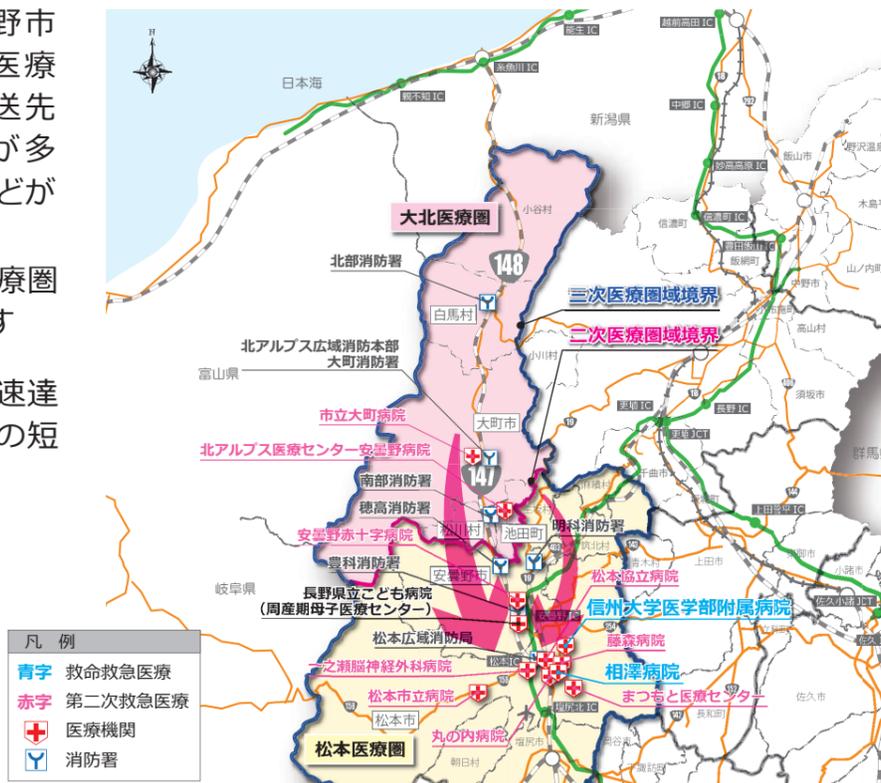
効果 松本糸魚川連絡道路により、大北地域の医療施設へのアクセス性の向上が期待されます



▶ 救急医療機関への搬送時間の向上

現状と課題 大北地域や安曇野市北部から第三次医療施設への救急搬送先は、松本市周辺が多く、国道 147 号などが利用されています
大北医療圏及び松本医療圏の連携強化が望まれます

効果 高次救急医療機関への速達性、緊急時の搬送時間の短縮が期待されます

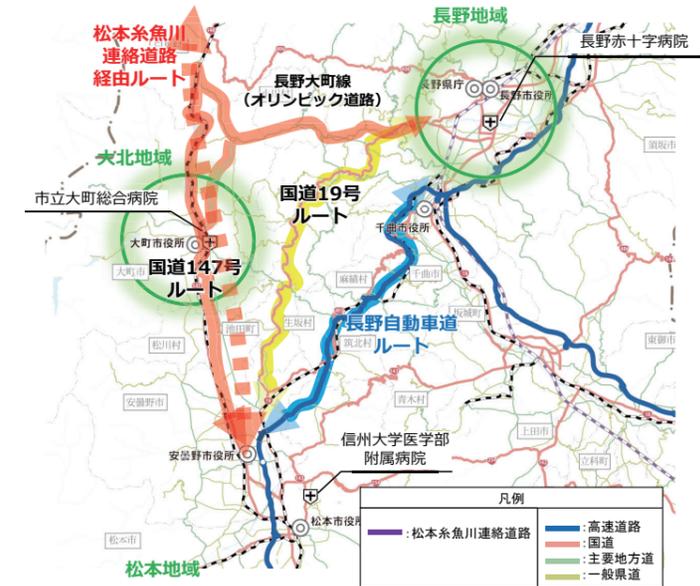


防災

▶ 災害時の代替路確保

現状と課題 距離、所要時間、道路構造の信頼性の観点から、災害時の代替ルートは不十分です
事故や大雪時など、長野自動車道の安曇野 IC ~ 更埴 IC 間が通行止めとなることもあり、安曇野 IC 周辺が渋滞することがあります

効果 松本糸魚川連絡道路を経由するルートが、災害時などの代替ルートとなります



■ 広域交通ネットワークの構築による整備効果

松本糸魚川連絡道路により、災害時の広域的な連携が強化されます。



【災害復旧にかかわる事例】

緊急車両走行のために開放された太田桐生 IC 付近 (東日本大震災時)



円滑・迅速な救急輸送 (東日本大震災時)



※NEXCO 東日本 2016 冬号ニュースレターより